

『中郡米』

成長の記録



浜松市立中郡小学校

令和 4 年 4 月 ~ 令和 4 年 10 月





『月 日』

令和 4年 2月 3日

『状態・作業』

* 耕作前の水田 …… 昨年の
稲株が残っています



『月 日』

令和 4年 2月 18日

『状態・作業』

* トラクターで耕運 2月 4日(1回目)
* トラクターで耕運 2月 18日(2回目)
* トラクターで耕運 4月 21日(3回目)
* トラクターで耕運 5月 18日(4回目)

* 寒起し …… 寒い時に耕運して
雑草・害虫の駆除に



『月 日』

令和 4年 4月 17日

『状態・作業』

* 種もみの消毒・ひやかし
(水漬け)

⇒ 発芽を促進するために行う。

⇒ 約1週刊くらい 2日毎に水替え



『月 日』

令和 4年 4月25日

『状態・作業』

* 種まき ⇒ 種まき用砂

種まき用育すう箱

⇒ 最近では機械植えが主流で規格品

の箱で種まきを行う

大きさ 30cm×60cm



『月 日』

令和 4年 4月25日

『状態・作業』

* 専用箱に種まき用砂を均一に

定規を使って行う



『月 日』

令和 4年 4月25日

『状態・作業』

* もみ種を箱に均一にまく

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 4月25日

『状態・作業』

* 写真の用にナイロンシートで簡単な池を作り その上に苗箱を置く

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 4月25日

『状態・作業』

* 写真用に専用シートで全体を覆う (トンネルにする)

⇒保温のして(外気と触れない)

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 5月 6日

『状態・作業』

* 専用シートをめくり生育を確認 その後 毎日水をかける

⇒ 一度に全部覆いをとらないで
少しづつ慣らしながら行う

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 5月 10日

『状態・作業』

* 専用シートを外して ネットに網
に交換

⇒ 野鳥が苗を食べに来る

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 5月 10日

『状態・作業』

* 生育状況 確認
多少むらがある
約10cm位

⇒ 水田に植付まで毎日水掛け

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 5月 15日

『状態・作業』

* 苗に水が切れてしまい、しおれ
てしまいました。

⇒ 前日の雨で確認を不足で表面が
乾いてしまい枯れる寸前

⇒ 学校中にをに設置



『月 日』

令和 4年 5月 15日

『状態・作業』

* 水田に元肥(肥料)の散布

⇒省力化を行うため水稻一発肥料を散布・・・途中で何回か追肥を置かなくて1回で済む『米仙人』

窒素 20、リン酸17、カリ10の成分肥料 約10kg



『月 日』

令和 4年 5月 24日

『状態・作業』

* 代掻き→トラクター

⇒ 水田に水を入れ土と水がよく混ぜ合わせる事により苗の活着(植付)が良くなる。

⇒当初は鍬で数人で代掻き体験も予定していましたが、経験者も少なく、体力的に負担が大きいのでトラクターで行う。



『月 日』

令和 4年 5月 24日

『状態・作業』

* 代掻き

⇒トラクターで行っても四隅等は

『トボ』使って平らにする。

⇒出来る限り高低差を少なくする

⇒高低差が大きいと水の管理が大変になり、高いところは雑草生えてしまう。



『月 日』

令和 4年 5月 26日

『状態・作業』

箱苗 60cm × 30cm

田植直前の苗の丈 約 13cm

⇒ もみ播きから30日位



『月 日』

令和 4年 5月 26日

小雨

『状態・作業』

18m × 15m = 270㎡ + 約80㎡
= 約350㎡ (約106坪)

⇒ 一列20名が3株ずつ田植綱の印
に沿って植え、前進する。



『月 日』

令和 4年 5月 26日

『状態・作業』

初めての子どもたちが殆どで、最初の
一歩が大変でした。

⇒ 尻もちをつくこもいましたが
綺麗に植付できました。



『月 日』

令和 4年 5月 26日

『状態・作業』

最後は自分たちで書いた看板の前で記念写真 ""



『月 日』

令和 4年 5月 27日

『状態・作業』

田植の翌日この地方で大雨で折角植えて苗が水に隠れてしまい増した。お昼頃少し先の方が見えるようになり、夕方には良く見えるようになりました。

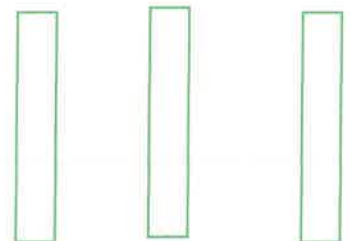


『月 日』

令和 4年 5月 28日

『状態・作業』

定点観測⇒ 苗の成長を観察

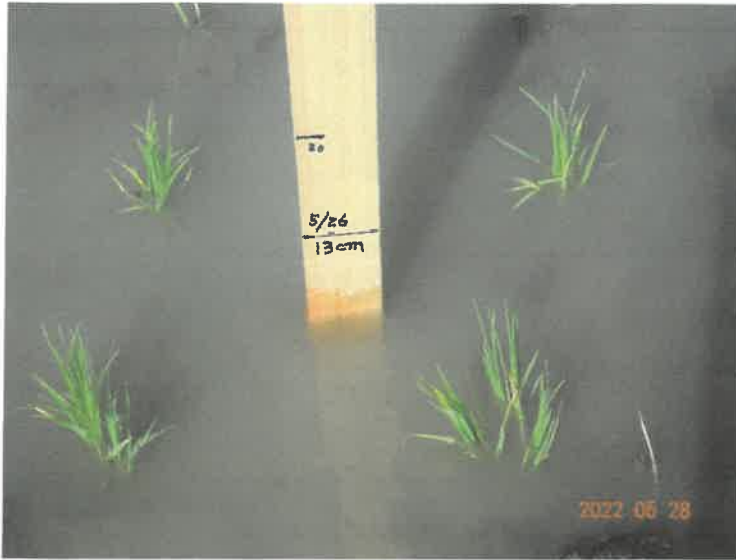


15本

4本

1本

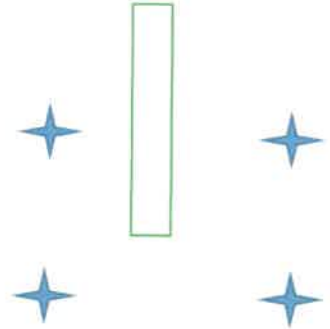
苗の本数



『月 日』

令和 4年 5月 28日

『状態・作業』



『月 日』

令和 4年 5月 28日

『状態・作業』

苗の本数によってどの様に成長のし方が変わるか観察する



『月 日』

令和 4年 5月 28日

『状態・作業』

浮き苗 欠株 等あります。

⇒ 従前は田植後1週刊くらいで田に入って差し苗・浮き苗の手直しを行ったが今回は少し様子を見てから







『月 日』

令和 4年 6月 4日

『状態・作業』

除草剤散布

⇒昔は田の草をお盆までに2～3回
手作業で行う。・かなり重労働

→最近は高度な除草剤が出来1回の
散布で出来る。

→広い面積の所は散布機で行う

『この秋は風か嵐か知らねども
今日の務めに田の草を取る』



田植後



『月 日』

令和 4年 6月 9日

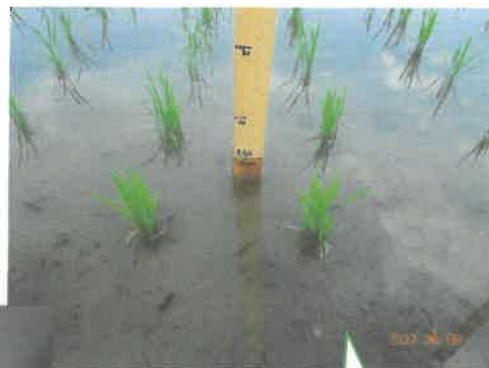
『状態・作業』

田植後2週間後の様子
大分根付いてきました。



2週間後の様子

田植後



『月 日』

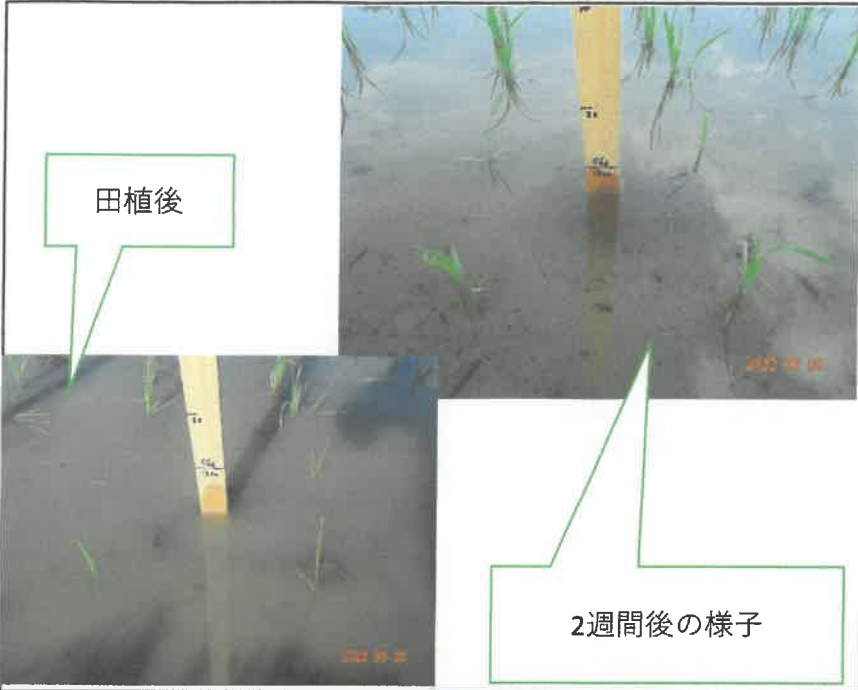
令和 4年 6月 9日

『状態・作業』

緑も濃くなり根付いてきた。



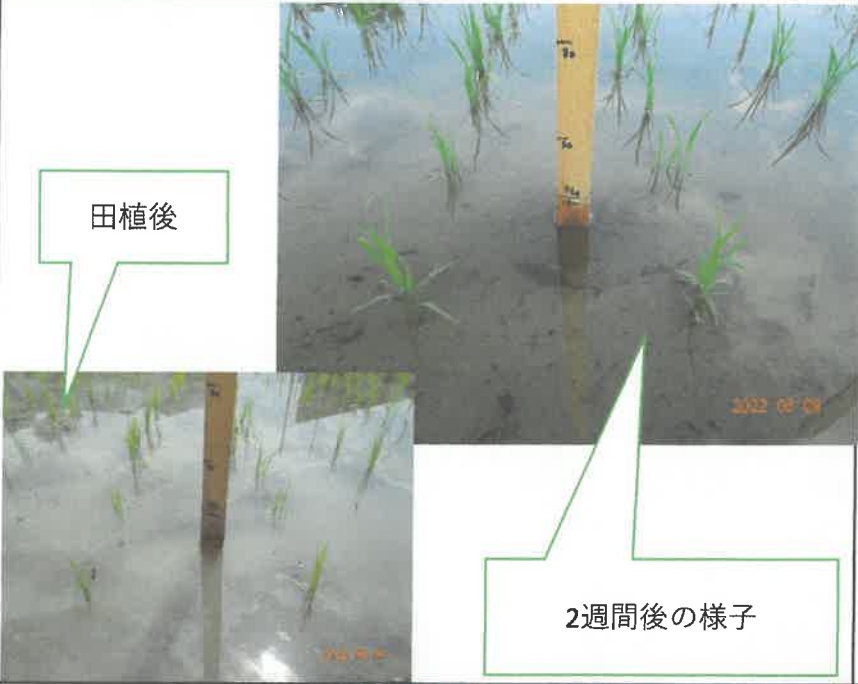
2週間後の様子



『月 日』
令和 4年 6月 9日

『状態・作業』

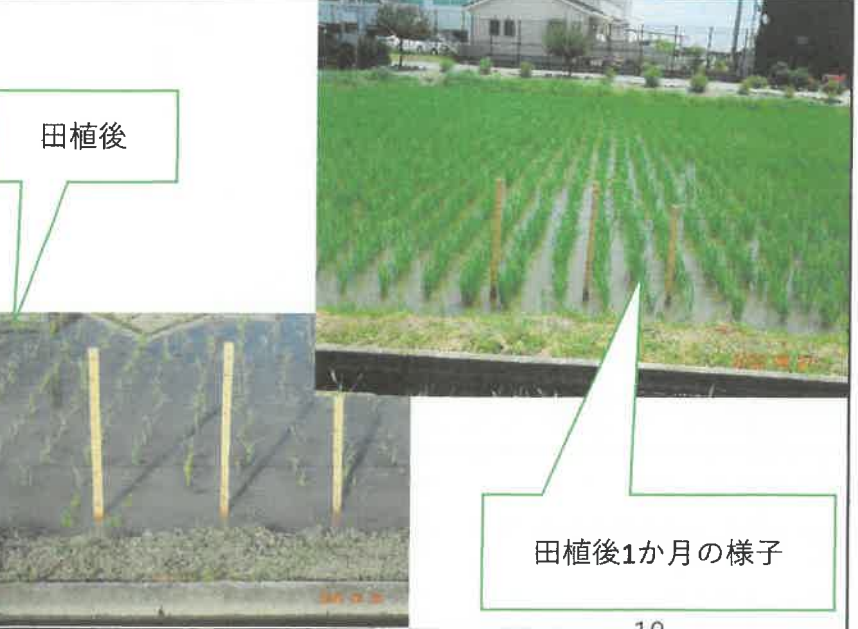
1本の苗でも成長してきました。



『月 日』
令和 4年 6月 9日

『状態・作業』

4本の苗です。元気に育っています



『月 日』
令和 4年 6月 26日
田植後1カ月

『状態・作業』

*分けて立派な水田に
なってきました。

田植後(1本)



『月 日』

令和 4年 6月 26日

田植後1カ月

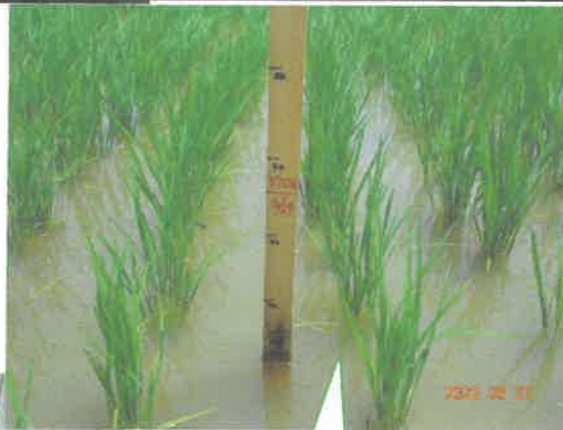
『状態・作業』

* 1本で植えた稲も4本に
なっていました



田植後1か月の様子

田植後(4本)



『月 日』

令和 4年 6月 26日

田植後1カ月

『状態・作業』

* 稲の背丈も伸び 37cm *成長*
に達していました。



田植後1か月の様子

田植後(15本)



『月 日』

令和 4年 6月 26日

田植後1カ月

『状態・作業』

* 15本以上植えて分けつも
進み今後どうなるかな？



田植後1か月の様子



おたまじゃくしも泳いでいます

もうじきカエルになる

『月 日』

令和 4年 6月 26日

田植ご1カ月

『状態・作業』

- * 逃げ足が速くてうまく撮影出来ないが、おたまじゃくし泳いでいました。
- * 今年はおたまじゃくしが少ない様に思います。天候の関係かな



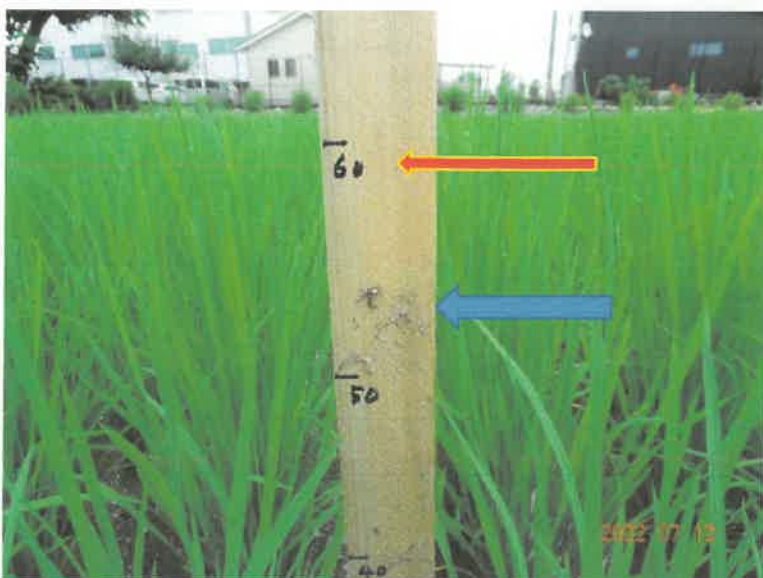
『月 日』

令和 4年 6月 26日

田植ご1カ月

『状態・作業』

- * 田植 翌日の大雨以外は比較的天候に恵まれ順調な生育
- * 水田に雑草もなく綺麗です



『月 日』

令和 4年 7月 9日

『状態・作業』

- * 夜11:00頃 高齢者避難のエリアメール 鳴り地区も大雨になりました。
- * 写真は数日過ぎてからの写真です
- ← 冠水時には水で稻先が隠れたと思います。
- ← 数日後(途中で大雨) 増水跡が残っていました



『月 日』

令和 4年 7月 22日

『状態・作業』

* この時期土用干しの期間です。
今年は大雨が多くて水田の水が無くなりません。

『土用干し』

* 稲の分株を止める。
* 水が無くなり地面に割れ目が出来、土の中に空気・酸素が入りその後水を入れる事により生育を促進、出穂前の大切な作業



『月 日』

令和 4年 7月 26日

『状態・作業』

* 田植してから2ヵ月過ぎました順調に成長しています。

1本 ⇒ 75cm

4本 ⇒ 80cm

15本 ⇒ 80cm



『月 日』

令和 4年 8月 8日

『状態・作業』

* 飛穂が見られました。

* 出穂する10日位前にこのような飛穂することが見受けられます。



『月 日』

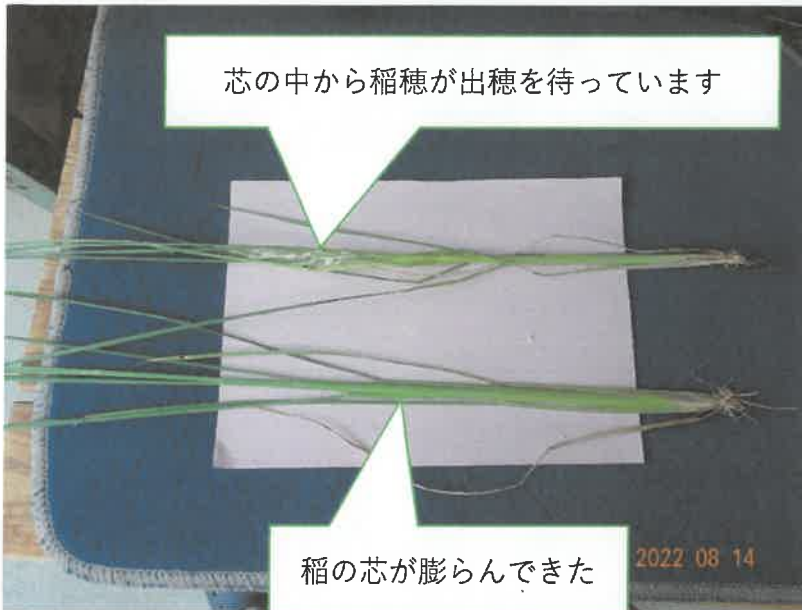
令和 4年 8月 10日

『状態・作業』

* 雨が多くてまた日中も暑くて
稲の成長も良いが 土手・法面の
草も大分大きくなります。

* この時期 2~3週間すぐ大きくな
ってしまいます。

* 何回か草刈り機で刈り取ります。



『月 日』

令和 4年 8月 14日

『状態・作業』

* 稲穂の芯が膨らんで稲穂の卵が
出穂を待っています



『月 日』

令和 4年 8月 14日

『状態・作業』

* 出穂の準備

* 稲を根から引き抜いて稲皮を
はがして中の様子を確認

芯をはがして見ると中から稲穂の赤ちゃんがありました



出穂しすず花をつけています

『月 日』

令和 4年 8月 23日

『状態・作業』

- * 出穂してきました。
- * すず花を付けている時に台風だど大風が吹くと白穂になり実がつきません。



『月 日』

令和 4年 8月 26日

『状態・作業』

- * 水田全体出穂しました。良く生育しています。

ほばらみ



『月 日』

令和 4年 9月 21日

『状態・作業』

- * 稲穂も出そろい穂先が垂れてきました。
 - * 法面の草刈りを行う。
- 『実れば実の程頭を下げる稲穂かな』



『月 日』

令和 4年 9月 26日

『状態・作業』

* 5年生100名が思い思いの案山子を校庭で作り『中郡米』水田に掲げた。13体 + 2個

* 多くの方が見学に来ています。



『月 日』

令和 4年 10月 11日

『状態・作業』

* 稲刈り・結束/運搬・ハズ掛け/ハズ造りと3つの工程に分けて3クラス交代で作業を行う。

* 初めての体験で最初は戸惑ったが半分刈り取り出来ればと思ったが5年生パワー見事全部刈り取り完了



『月 日』

令和 4年 10月 18日

『状態・作業』

* ブラハズで稲を乾燥する。

* 業者が稲を運び作業場で脱穀





『月 日』

令和 4年 10月 23日

『状態・作業』

- * 乾燥 + 粳摺り + 計量 + 袋詰め
- * この行程からは大手業者に依頼
- * 玄米 30kg(2斗) 袋詰め



『月 日』

必要な時にコイン精米

『状態・作業』

- * 自宅 米蔵(大型冷蔵庫)に保管
- * 必要な時に精米



『月 日』

『状態・作業』

- * 炊飯し食卓に
- * 『米』という時は八 + 八と 書き
粳播きから88回の作業工程を
行って食卓に上がります。

『いただきます』

ありがとうございました

2022-10 村木文吉

米造いの参考資料 目次

* お米収穫後の副産物の活用

☆ 稲わら

☆ もみ殻

☆ 米ぬか

* スナップ写真

☆ 田植え

☆ 案山子づくり

☆ 稲刈り

* 農具の移り変わり

* 米づくりのまとめ

* 水田の地図

稲わら

《 お米収穫後の副産物の活用 》

《 中 郡 米 》

『稲わら』 ⇒ ⇒ ⇒ 稲を刈り取り脱穀して籾(米)の部分を取り除いた物



ぶ
ら
は
ず



	写 真	使用目的	作 り 方	備 考
縄		<p>* 各種固定用、締め付け用に用途は豊富* わら細工の基本で各方面に使用</p>	<p>* 綺麗にした稲わらを少し水を掛け(柔軟性)太さにおおじた本数を手で撚りを掛けながらなっていく。 * 現在市販されているのは機械編みです。</p>	<p>* 普通は右ねじりで織う。機械編みと手編みがあります。</p>
しめ縄		<p>* お宮の鳥居・神殿お正月には各家庭の玄関に飾り付ける。縁起物 * 形状・大きさは大小様々、各種サイズ作る。</p>	<p>* 地元の神社では水田(神饌田)に苗を植え、稲から、しめ縄作りを神社役員1ヵ月位かけて直径25~30cm位の注連縄を各種作ります。</p>	<p>* 注連縄等は左ねじりの3本編み</p>
米俵		<p>* 脱穀→籾摺り→玄米の貯蔵保管 * 1俵 60kg(4斗)を俵に入れ胴を縄で硬く締め付けて米蔵に保管 * 写真は投げ餅用</p>	<p>* 脱穀後の稲わらを根元の余分な袴を取り除き、1枚のコモを筒状に編みます。 * 両サイドの丸い蓋(稲わらで)を縄で絡げた作る。</p>	<p>* 現在では殆ど使われていない。 * 30kgの紙袋に変わった。 * ミニヲの飾り、縁起物に現在は造る</p>
わらじ		<p>* 靴・下駄の代わりに使用 * 学校の運動会のマラソン大会で道路を走る時に使用(昭和30年代)</p>	<p>* 4本の立て縄に交互に藁を織りまげて自分の足の大きさに位まで編む * 出来上がったらはなをを付けて完成</p>	<p>* 現在では藁の代わりに布切れでお洒落に作り使用している。</p>

	写 真	使用目的	作 り 方	備 考
畳の 芯床		*家の和室の畳*断熱に優れ日本の家屋では多く使われている。	*脱穀した藁を2~3年乾燥させ、畳屋さんで機械で作る。芯床の上に畳表を取付完成、6帖・8帖 関東・関西間があり寸法が多様違う	*現在では藁の代わりに、発泡材の芯床に変わり軽くなってきた。
むしろ(コモ)		*むしろを敷いてその上に穀物(麦・大豆等) 拡げ乾燥させる。*外で集会等多くの人が集まるときに敷いてその上に座る。	*約90cm×180cmの寸法に細くなった縄と、藁を交互に編上げて造る	*現在のブルーシートのような物 *防寒・少し細工をすれば大きな貯蔵タンクに
家畜 の餌		*特に牛の飼料として主食です。	*乾燥した稲わらを配合飼料と混ぜて毎日沢山食べる。	*現在では外国から飼料を購入している農家が多くなってきた。
家畜 の床 じき		*家畜 特に牛・豚等の大型家畜の床に敷く	*牛・豚の糞尿の処理材として使う	*最近では家畜として飼育している世帯は少ない*数十頭と大規模酪農化に
農家 の作 物敷 きわ ら		*畑・田の有機肥料として * 野菜類の敷きわらに	*野菜の敷き藁、有機肥料、土壌改良等に使用する	*土地の地力を増す。*化学肥料を使わない有機栽培の野菜がある。
すが え		*田の稲穂を刈り取り15株位に束ねて結束する。	*稲わらの2/3位 編み上げて穂先を結ぶ。	*稲刈り前に昨年の稲わらで作る。
ポ ッ チ	 <div data-bbox="414 1848 630 1982" style="border: 1px solid green; padding: 5px; position: absolute; top: 10px; left: 10px;"> 竹駕籠でなく藁で作る </div>	* むしろ等を変形した大きなかご。*前後二つのポッチを天秤棒で担いで運搬する。サマイモ・堆肥等重量物の運搬	* 縄・むしろの変形で使用目的に沿って大きさを決める。2個同じ大きさで作る	*2個を天秤棒で担ぐのでかなりの重量物も楽に運搬出来る。

もみ殻

《 お米収穫後の副産物の活用 》

《 中 郡 米 》

『もみ殻』⇒⇒⇒脱穀してもみ摺りを行い玄米を取り除いた殻



手刈り








コンバイン



乾燥機・粃摺り機

玄米

もみ殻

	写 真	使用目的	使用の仕方	備 考
冬場の 火鉢燃料		* 寒い冬の暖房用燃料	* 少し大きめの火鉢に種火(炭)を付け、その上にもみ殻を被せて置くと少しずつ燃えて、火鉢が暖くなりその周りの暖房になる。	* 現在では家庭では殆ど使われていない。
農業用作物 保温資材		* 根菜野菜の寒い冬の季節に凍結を防ぐために『もみ殻』を被せて寒さ避け	* 里芋・さつまいも・ショウガ等の保存に上にかぶせて保温する。	* 最近では「もみ殻」の処理に困っている。
家畜の床じき		* 豚・牛・ウサギ等家畜のきゅう舎に『もみ殻』を敷く	* 家畜のし尿処理が簡単に来る、そのまま畑などに散布出来る。	* 大規模酪農できゅう舎の形態が変わり使用頻度が少ない。
枕等の クッション材		* 枕の中身に昔は良く使用していた。	* 布で袋を作りその中に『もみ殻』を入れて使用する。大きさ・形状が自由に出来る。	* 代替品が手軽にあり使用頻度が少ない。
卵の移動運搬 時の緩衝材		* 卵・リンゴ等 運搬時に割れたり、キズ防止のための緩衝材に	* 最近では手軽な緩衝材があるのであまり使われていない。	* 繰り返し何回でも使用でき、手軽な緩衝材

米ぬか

《お米収穫後の副産物の活用》

『米ぬか』 ⇒ ⇒ ⇒ 玄米を精米機で精米を行い、玄米の表面皮『米ぬか』



	写 真	使用目的	使用の仕方	備 考
野菜の漬物部材		* たくあん漬け * 白菜の漬物 * なす・きゅうり等 漬物用部材	* たくあん漬けは大根を乾燥し、樽に並べ米ぬか・塩を混ぜ上から重しを置き漬ける。	* 漬け方は各家庭独特の方法あり
家畜の飼料		* にわとり・豚・ヤギ等家畜の餌	* 家畜に合った飼料と混ぜて与える。	* 大規模経営になり、使用頻度は少ない。
農家の野菜肥料		* 化学肥料だけでな有機肥料の栽培 * 特にスイカ・トウモロコシ・サツタ等々に米ぬかを置くと甘みが増す	* 土と混ぜて置く	* 家庭菜園を行う人が増え、健康志向で需要が多い。
虫よけ		* 夏場の蚊・虫の駆除に使う * 広い場所での虫の退治には効果的	* 火鉢に炭に火を付けその上に米ぬかを被せる。米ぬかが燃え 虫よけになる。	* 独特な臭いがあり、癒しの効果も

スナップ写真 (田植え) NO1



スナップ写真 (田植え) NO2



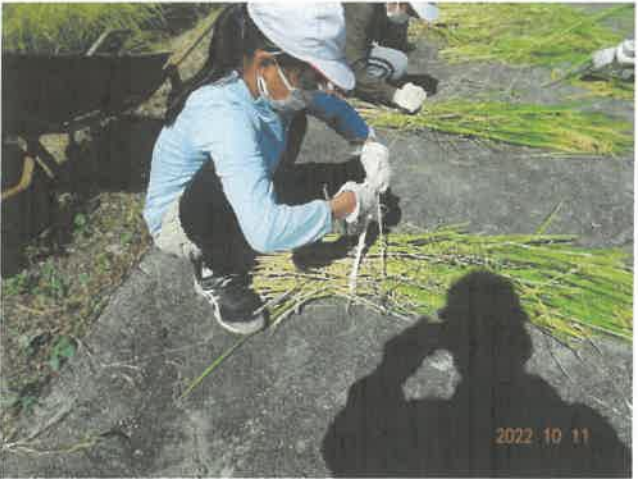
スナップ写真 (案山子づくり) NO1



スナップ写真 (深山子づくり) NO2



スナッフ写真 (稲刈り) NO1



スタッフ写真 (稲刈り) NO2



《農具の移り変わり》NO1

《中郡米》

	昔	少し前	現在
耕運	<p>* 3本爪か4本爪の鋤で1株ずつ耕して行く。 * スキと言う装具を馬・牛に引っ張って耕す。</p>	<p>* 耕運機で耕運(人も耕運機と一緒に歩いていく)</p> 	<p>* トラクターで耕運(乗用で耕運機の数倍の能力がある)</p> 
苗代田植	<p>* 水田に水をはり苗床を作り種もみをまく。 * 水田の中で一本一本ずつ苗取りを行う</p>	<p>* 田植機(人も田植機と一緒に歩いていく)登場 * 規格の苗箱に種もみをまき、一緒に歩きながら植え付ける</p>	<p>* 乗用田植機 2条4条 6条8条と小型～大型まで耕作面積にあった機械選び</p> 
草取り	<p>* 田植が終わり2週間後位～7月のお盆ごろに掛けて稲の周りの草取りを人力手作業で暑い中行う。重労働な作業。</p> 	<p>* 『転ばし』という先端に耕運機の刃の様な機械(道具)で人力で押して回しながら草を取る。</p>	<p>* 効果的な除草剤が開発されて田植後1回、水田に散布するだけで雑草が生えない</p>
稲刈り	<p>* 一株一株鎌で刈り 結びハズに掛け乾燥させる。 * 『中郡米』の刈り取りはこの方法で行った。</p>	<p>* 『バインダ-』と言う機械が登場(人も機械と一緒に歩く) * 1条・2条刈で結束しながら刈り取って行く。</p>	<p>* 『コンバイン』大型乗用機械が登場。2条刈・4条刈・6条刈・8条刈と水田に応じた機械 * 刈り取りながら脱穀・藁切も同時に行う</p>

《農具の移り変わり》 NO2

	昔	少 し 前	現 在
脱穀	<p>* ハズ掛けをして乾燥した稲を足踏み式脱穀機で脱穀</p> 	<p>* モーター・エンジンを動力にした脱穀機が登場</p>	<p>今は『コンバイン』が主流</p> 
籾摺り	<p>* 地域共同で籾摺り機を保有して各農家共同作業で行う * 俵に4斗(60kg)入れて各自の米蔵に保管</p>	<p>* 共同での機械管理・保守が大変になり、専業農家に依頼</p>	<p>* 稲刈り・脱穀・乾燥・籾摺りを大手の専業農家が行うのが多くなった</p> 
精米	<p>* 各部落・地域毎に精米屋さんがあり各自が『リヤカー』に俵を乗せて精米屋さんで白米にする。 * 白米は貴重で麦8割 米2割で正月とかお祭りの時しか白米ご飯は食卓に上がらい。</p>	<p>* 地域での精米屋さんも減少して家庭用小型精米機が普及しだした。</p> 	<p>* 現在はお米を耕作する人が減少して農地を大手の依頼するか放棄農地が増えてきた。 * 必要に応じてスーパー・コンビニで精米したおコメを購入 * 今では白米100% パン・麺類が多く米離れの傾向です。</p>
将来	<p>* 農地を集約して無人のトラクター・ドロンでの種まき・無人の『コンバイン』が活躍して効率の良い稲作造りかな？</p>		

《稲作造りのまとめ》

中郡小学校50周年記念

『中 郡 米』

分桔状態 (1株当たりの稲穂の数)

『田植時に1本』



株	稲穂の数(本)	1穂当たりの粳の数量(粒)
A		
B		
C		
D		
平均		

《参 考》

玄米

1表 = 4斗

⇒ 60Kg

1斗 = 10升

⇒ 15Kg

1升 = 10合

⇒ 1.5Kg

1合 = 10酌

⇒ 0.15Kg

『むしやふな』

64、827粒で1升

『問題』 中郡米 何kg 収穫できるかな？

予想してみてください。(

Kg)

《約 360㎡ 8,000株》

記: 村木 文吉

《稲作造りのまとめ》

中郡小学校50周年記念

『中郡米』

分桔状態 (1株当たりの稲穂の数)

『田植時に4本』



株	稲穂の数(本)	1穂当たりの粃の数量(粒)
A		
B		
C		
D		
平均		

《参 考》 玄米

1表 = 4斗 ⇒ 60Kg

1斗 = 10升 ⇒ 15Kg

1升 = 10合 ⇒ 1.5Kg

1合 = 10酌 ⇒ 0.15Kg

『むしやふな』

64、827粒で1升

『問題』 中郡米 何kg 収穫できるかな？

予想してみてください。(Kg)

《約 360㎡ 8,000株》

記: 村木 文吉

《稲作造りのまとめ》

中郡小学校50周年記念

『中郡米』

分桔状態 (1株当たりの稲穂の数)

『田植時に15本以上』



株	稲穂の数(本)	1穂当たりの粳の数量(粒)
A		
B		
C		
D		
平均		

《参 考》

玄米

1表 = 4斗

⇒ 60Kg

1斗 = 10升

⇒ 15Kg

1升 = 10合

⇒ 1.5Kg

1合 = 10酌

⇒ 0.15Kg

『むしやふな』

64、827粒で1升

『問題』 中郡米 何kg 収穫できるかな？

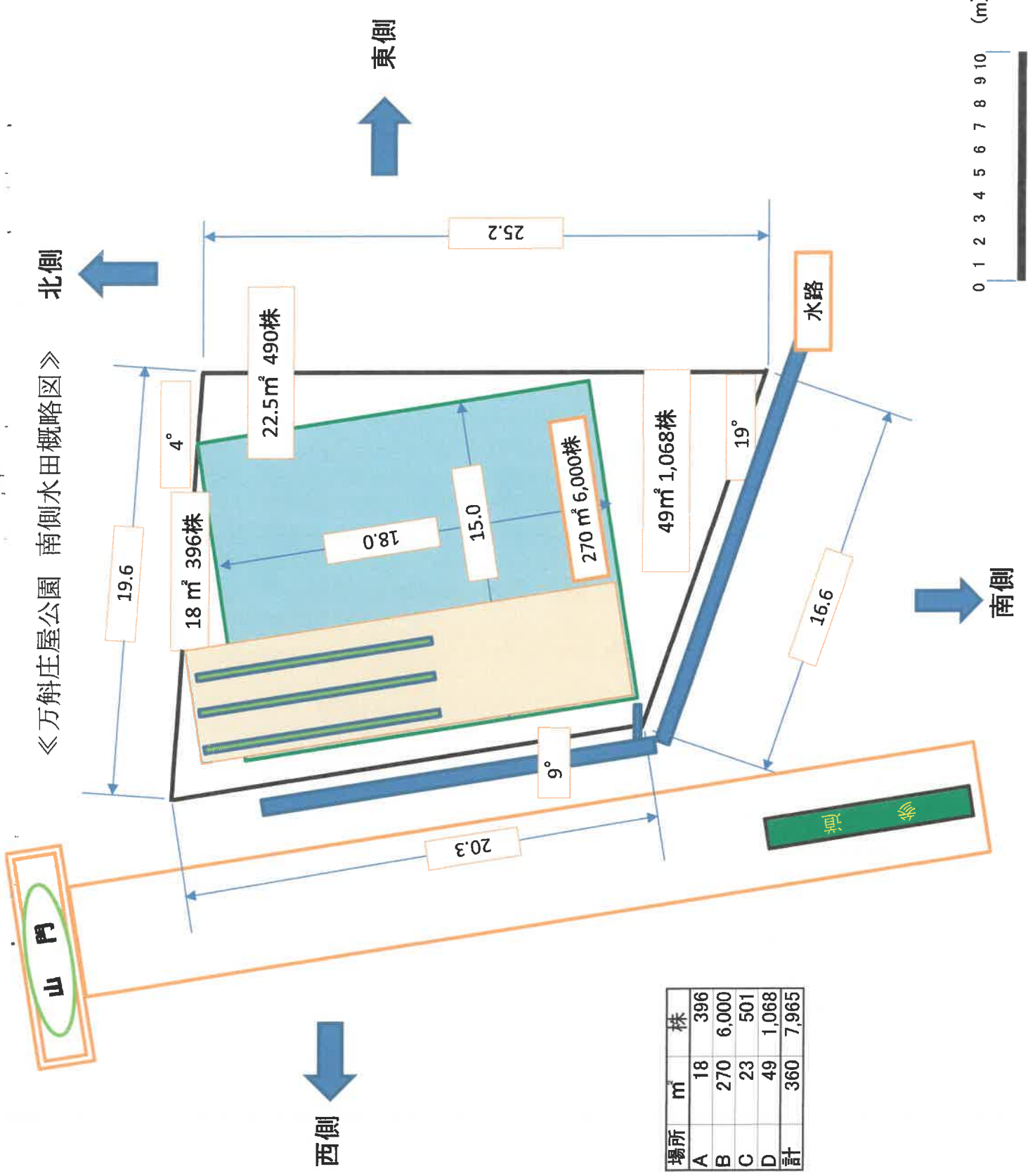
予想してみてください。(

Kg)

《約 360㎡ 8,000株》

記: 村木 文吉

《万斛庄屋公園 南側水田概略図》 北側



場所	m ²	株
A	18	396
B	270	6,000
C	23	501
D	49	1,068
計	360	7,965

1 2 3 4 5 6 7 8 9 #

